

自分達がやりたいことを、みんなで工夫して！

LaLa湘南平塚コモンズ自治会の概要

LaLa湘南平塚コモンズ自治会は、ららぽーと湘南平塚の建設に併せて2016年にオープンしたマンションと戸建ての住民で構成されています。当初、コンサルタント会社の支援により発足したコミュニティの会「コモンズ」（2017年）で住民同士の交流を図っていましたが、2021年から正式に自治会の形を取り活動を開始しました。

住民は平塚市内から移ってきた人と、他市から移ってきた人がおり、比較的若い世代が多いため、前例に捉われず、自らが必要と思うことから始めることにしました。



場 所：平塚市宮松町

規 模：マンション186世帯 / 戸建て171世帯

人 口：マンション453人 / 戸建て545人

平均年齢：マンション40.3歳 / 戸建て31.3歳

(2023年10月のデータ)

コミュニティの会「コモンズ」発足時から関わり、自治会となってから会長を務められている小村由美子会長は、「コミュニティの会として発足した当時は、コンサルタント会社が中心に開催する防災イベントや、ワークショップなどの企画に参加していました。3年後



右から4人目が小村会長

にこのコミュニティの会を続けるのか、解散するのか、続けるならばそれを自治会にするのか、などの判断に迫られ、最終的には2021年に自治会発足という形を選びました。コモンズのポリシーはそのままに崇善地区の連合会にも所属して、無理のないように出来ることを行っています。」と話します。

■ LaLa湘南平塚 commonsの3つのコンセプト

住民同士のコミュニティの会から移行した自治会は、以下の3つのコンセプトで活動を開始しました。

このエリアに期待をもって集うマンション・戸建居住者のみなさんが適切なつながりを生み出し、コミュニティとしてのパワーを得る。ゴールは住民主体のコミュニティづくり。

小さな一歩から、さあ、始めましょう。

1

いざというとき、助け合えたら

お住まいの方「知り合い20人」づくりの機会を応援します。

.....

2

世代やテーマごとのネットワークづくり

セカンドステージ世代や子育て世代の交流、共通の趣味・テーマ・関心を共有する人々とのつながりづくりを通じて、暮らしの充実を応援します。

.....

3

エリアの住みやすさ向上に向けて

暮らしの質感を高め、未来に続く一歩を踏み出す住民の皆さんを応援します。



顔と名前が一致するつながりづくり



クリーンアップ活動



マンション共有スペース



クラフト作り

■ ありたい姿を実現するために

3つのコンセプトは、この地に住んで良かったと思えるようなまちづくり、ありたい姿を描いたものとなっています。コンセプトを基に自治会として活動を推進する上で念頭に入れたのは「**自分達がやりたいことを、自分達のやり方で**」です。

新しい住民、そして比較的若い世代が多く、自治会としての予備知識が少ないためにゼロから立ち上げることとなり、これが前例に捉われず、自らが必要と思うことから始めることに繋がっています。

■ 自治会活動の特徴

「自分達がやりたいことを、自分達のやり方で」を実践するために、具体的に以下に示す施策を取っています。

自治会活動組織は最小限

三役と活動部門で構成しています。

必要に応じた人員で構成

自治会役員は、三役と活動部門を選任して計6名、実際にイベントなどで人手が必要な場合はボランティアを募集しています。

自治会費は0円

活動費用は市からの交付金と資源再生物回収による収入。イベントなどによる出費は寄付あるいは参加費から支出。また予算は年度内に使い切ることを原則としています。

情報伝達はSNSがメイン

情報伝達及び連絡などにはLINEの他、ちいき情報局のウェブサイトなどを活用することを推奨しています。

イベント開催に工夫

- 住民自らが企画し、運営することに主眼を置いています。
- 多世代に渡って楽しめる企画を立てています。
- 異なる事業を一体化して実施することにより、効率化を図っています。



オープンな自治会役員会合



多世代で楽しむレクリエーション

■ これで自治会としてやって行けるの？

新しい形で取り組んでいる LaLa湘南平塚コモンズ自治会に基本的な疑問について聞いてみました。

Q1 役員はその人数で大丈夫？（班長のような人はいるの？）

A1 班長は設けていない。現在役員は6人となっているが、例えば企画会議でも夫婦で出席することにより、実質12人の役員がいるのと同じとなっている。役員が多くなると業務も増え、また判断・決定にも時間を要することが考えられるため、当面現行人数で対応していく。

Q2 自治会費0円でどうやって運営して行くの？

A2 自治会の活動費は市からの交付金と資源再生物回収による収入がベースとなる。イベント開催による費用の一部として、寄付や参加者負担をお願いすることもある。予算は年度の繰り越しはせずに使い切りを原則とするため、年度の後半のイベントについては、残高を計算した上で、支出を考えて実施している。

Q3 ごみ当番はどうしているの？

A3 ごみ当番はなし。マンションについては、管理組合で実施。戸建てのごみ置き場は、住民が購入したもので住民自身の責任で管理する形となっており、自治会から口を出すことはない。現在、大きな問題点は見当たらないが（外部からのごみの持ち込みが見受けられることがある）、住民判断で自ら対応できるものは実施し、難しいものについては市へ連絡するようにしている。

Q4 情報伝達はSNSをメインとしているが、高齢者などSNSを使えない人への対応はどうしているの？

A4 希望者には役員が配布物をポストインしている。現在ポストインは20戸程度。

Q5 住民同士が顔見知りになり、価値の共有を図るためにどのような工夫をしているの？

A5 イベント（自治会独自、地域主催のもの）がメインで、他に月2回マルシェを開催している。自治会独自では防災、秋祭り、クリスマス会などを実施。連合会のイベントとしては、地区レクやその他イベントを案内している。参加率はイベントにより異なるが世帯で30%程度である。参加者募集は、申込み定型フォームの作成や、LINEの活用により効率的に実施している。

Q6 住民からの声はどのように聞いているの？

A6 会長として名前と電話番号を公表しているほか、マンションの管理人経由で意見を受け付けている。その他、毎年総会時に発言や書面での受け付けを行っている。但し、匿名での受け付けはしない方針としている。

Q7 現在の一番の課題は何ですか？

A7 高齢者層の関わりを増やしたい。例えば、マルシェは高齢者を意識して企画しており、高齢者の来場も比較的多いが、購入してすぐ帰ってしまう傾向が見られ、何らかの工夫が必要。

活動事例 1

地域と連携、体験する「防災活動」

自治会組織として近年多発している災害への対応が必須であり、当初から重要活動として取り組んでいます。

👉 防災に関する考え方

- ① 基本は自分の身は自分で守る
 - ② マンションと戸建て、及び地域との連携を取る
 - ③ 定期訓練は体験型として楽しく実践
-



各戸最低3日分の備蓄

👉 取り組み内容

- ① 備蓄・・・自治会では行っておらず、各戸最低3日分の備蓄を要請
 - ② 防災訓練・・・お楽しみを兼ねて多くの住民が参加するように工夫
※レクリエーションとの一体化、焼きそばの提供など
※平塚市災害対策課などの協力を得ている
 - ③ 避難場所・・・戸建ての住民はマンションのコミュニティルームを利用できる
※指定避難所は江陽中
 - ④ “ららぽーと”との協力・・・
定期的に意見交換会を実施しており、その中で防災に関しても協力しながら進めることにしている
※例えば、津波が来ることが予想される場合は、ららぽーとの屋上に避難する
-

避難場所として活用できる
マンションコミュニティルーム

👉 問題点と対応策

住民名簿の作成は、住民の理解を得るのが難しい

- ➡ 高齢者、一人暮らしの住民については、民生委員の協力の下に把握済で、避難時に対応できるようにする
-



災害対策課の協力による体験型訓練

👉 参考になるポイント

- ① 自助の徹底・・・各戸に最低3日分の備蓄要請
- ② 地域として防災を考える・・・
場所が離れた「マンションと戸建て」、「ららぽーと」の協力関係の構築
- ③ お楽しみを兼ねての体験型訓練・・・
多くの人の参加を促すことと、行事を一体化することによる効率化（負担軽減）



ららぽーとでのイベント

活動事例 2

「お楽しみとお役立ち」の両立 コモنز秋祭り「防災イベント&ミニレク」

イベントは住民同士が顔の見える関係をつくるために、自治会の重要な活動の一つとなっています。自治会独自のイベント活動としても、夏祭り、秋祭り、クリスマス会、季節毎のマルシェなどを開催していますが、その内の一つである秋祭りの事例を紹介します。

ねらい 多世代の地域住民が「お楽しみとお役立ち」を実感

- ① 地場産の野菜や海産物、弁当などを販売するマルシェ
- ② 皆が楽しめるビンゴ大会やマリコーンリレー
- ③ 防災を身近に体験！ 起震車、消火器の使い方訓練

イベント開催のための工夫

イベント開催に当たって、色々な工夫をしています。

- ① 企画は「お楽しみとお役立ち」の両立
 - 防災とレクリエーションを併せて実施
 - 過去の実績（楽しいイベントには多くの人が集まるなど）や、反省点（子ども中心のイベントが多かったなど）を踏まえた企画立案
 - 防災は地域住民の重要活動の一つであることから、多くの人楽しく興味を持ってもらうために体験型に
- ② 多くの人々・組織に協力依頼
 - 自治会・・・企画立案から当日・反省会までボランティアを広く募集
 - 民間企業・・・野菜、魚屋等のフード販売などマルシェ開催
 - 市・・・・・・起震車体験、消火器の使い方指導など
- ③ 予算は本当に必要なものだけを市の助成金と寄付金で
- ④ 多くの人に参加してもらうために
 - SNSの活用・・・若い世代にはSNSの活用が一番
 - チラシ、ビラ掲示、口コミ・・・SNSを活用していない世代、自治会以外の地域の人への声掛け

参考になるポイント

- ① 防災とレクリエーションを一体化することによる効率化
- ② 多世代の住民、地域住民皆が楽しめる企画立案と参加促進
- ③ 自治会、民間企業、市との連携



イベントポスター



マルシェ



マリコーンリレー



防災訓練（起震車体験）

ここに 新しい形の自治会がある！ ～これからに向かって～

平塚市の中心街にあるLaLa湘南平塚コモンズ自治会を紹介してきました。

「自分達がやりたいことを、自分達のやり方で」を理念に新しい感覚で自治会運営がなされており、現在各地で自治会運営に苦勞されているところに参考になるものと思われます。

最後に、小村会長から現状の率直な問題・課題とこれからに向けた自治会の在り方、進め方についての考えを伺います。

「運営面では私も含め役員さんもボランティアなので、負担を感じたり義務感だけの関わりが多くなると、長くは続かないと思っています。ボランティア活動の犠牲の精神だけでは難しいと強く感じています。そのため『そろそろやりたいね!』『地区レク頑張ったのでしばらく活動休みにしましょう!』『そろ

そろ役員会やりましょうか?』『今回は集まれないのでLINE交換で』など自由に、和気あいあいと地域の皆さんとの関わりを深めています。

70歳まで現役で働く時代、また防災に関しても自助を最優先する時代、さらには子育ても家事も両親揃って行う時代に、昭和のままの考え方では地域はまとまらなないと実感しています。募金や回覧板は必要な時もあるかもしれませんが、それが主活動になってしまうことは今後も避けたいと考えています。ららぽーとという商業施設とともに住みやすい平塚のセントラルで、自主的に積極的に活動をしていければ、何年か後には小春日和のなか、アクティブシニアが子どもたちの遊んでいる姿を見ながらテントの下でコーヒーを飲んでいる、朝の横断歩道では『おはよう』の挨拶が飛び交い、ごみの日には当番などを決めなくても積極的に誰かが掃除をしたりする、そんな光景が当たり前のように見られる地域になることを信じて、自分達らしく活動を続けていきたいと思っています。」と語っていただきました。



column 2



（総務省HPより）



国が推進する新しい地域運営の組織って・・・



国（総務省）が取り組む『地域運営組織』とは

従来の自治・相互扶助活動から一歩踏み出し、「地域の暮らしを守るため、地域で暮らす人々が中心となって形成され、地域内の様々な関係主体が参加する協議組織が定めた地域経営の指針に基づき、地域課題の解決に向けた取組を持続的に実践する組織」を『**地域運営組織**』と定め、これを支援しています。

地域運営組織の役割とは

自治会や各種団体が母体となって将来ビジョンや課題解決を検討する「**協議**」機能とその解決に向けた取り組みを実践する「**実行**」機能の両方を備えた活動を行っています。

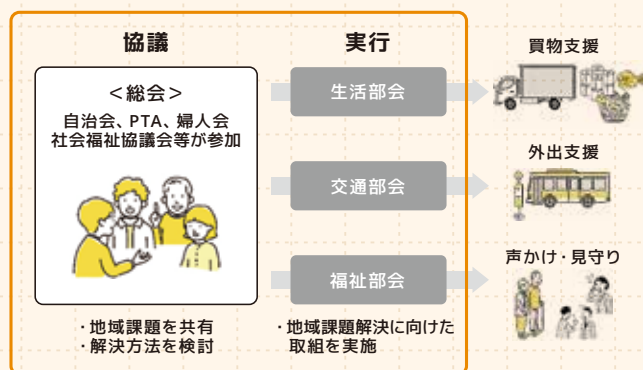
「協議」と「実行」を同一組織で一体に行うもの（一体型）と、「実行」の取り組みに応じて別組織・法人や団体に委ねて行うもの（分離型）があります。

活動範囲は概ね小学校区程度です。「地域運営組織」が主体的に動いている地域は、高齢化が著しく進んでいる中山間地域です。

平塚市では、地域経営の指針は持たないものの「住民自治組織」を立ち上げ、地域の課題解決に向けて取り組んでいる地域があります。しかしながら、今後の人口動向をみると、20年後には「地域運営組織」の立ち上げが必要になってくるかもしれません。

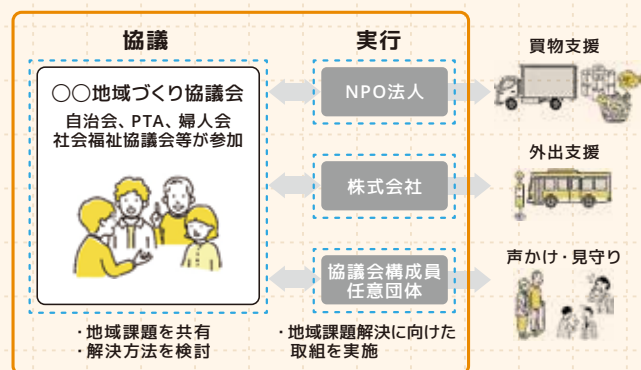
一体型のイメージ

〇〇地域づくり協議会（＝地域運営組織）



分離型のイメージ

地域運営組織



〔地域運営組織の数（令和4年9月時点）〕 ●全国：7,234 ●神奈川県：110 ※小田原市：26／茅ヶ崎市：25／伊勢原市：17／平塚市：0